

# みんなの ひろば

## 主な内容

- 理事長あいさつ  
～『ONE TEAM』は一日にして成らず～… 1
- 令和2年度新採用職員紹介 …… 2、3
- 新常務理事あいさつ、  
経営理念・経営基本方針 …… 4

# 134号

令和2年5月29日  
発行



※上の黒点は、題字と同じ内容を  
点字で表したものです。

## 『ONE TEAM』は一日にして成らず



ささき まこと  
理事長 佐々木 信

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、世界中で社会経済のあらゆる分野に大きな影響をもたらしています。安倍総理大臣は、3月14日の記者会見において、「全国津々浦々、心を一つに、正にワンチームで現在の苦境を乗り越えていきたい」と述べました。福祉施設・事業所においては、ひとたび感染者が発生すると集団感染に繋がるリスクが非常に高いため、我々も、その防止に、利用者やご家族、関係者等のご協力をいただきながら、役員二丸となつて取り組んでいきます。

ところで、総理が引用した『ワンチーム(ONE TEAM)』は、ラグビー日本代表のスローガンであり、昨年のワールドカップ(W杯)での史上初の8強入りの活躍とともに大いに取り上げられ、流行語大賞にも選ばれたことは、皆さんご承知のとおりです。

これに便乗して、ビジネスシーンをはじめいろいろな場面で、この言葉が使われました。非常に使い勝手の良い

言葉であり、ついつい乱用したくなるのですが、掛け声だけで実体が伴っていないと、反発やしらけを惹起して、逆効果になる懸念もあります。

そもそも、ラグビー日本代表が『ONE TEAM』を打ち出したのは昨年ではなく、その3年前の2016年です。就任直後のジョセフヘッドコーチ(HC)と選手のリーダー達との話し合いの中で考案された言葉だそうです。当時はマスメディアでもほとんど取り上げられませんでした。

言葉を掲げただけでそれがすぐにチーム内に浸透するほど、甘くはありません。私はラグビーファンとして日本代表の試合はほとんどテレビ観戦してきましたが、ジョセフHC体制発足から暫くは、前任のエディHC時代の戦術を変更した意図を選手が消化しきれず、スキルも不十分だったため、芳しくない結果が続き、チームとしてまとまっていけないという印象を強く受けました。

そこから、度重なる合宿において、ハードな練習でスキルを磨くとともに濃密なミーティングで共通認識を構築し、また、試合を行うごとに経験値を段階的に上積みしていくことで、選手・スタッフの相互理解と連携を深めることができ、それが『ONE TEAM』として結実して、W杯での快進撃が生まれたのだと思います。

さて、当事業団におきましては、令和2年度が中期経営基本計画の最

終年度であり、引き続き引き続き役員が心を一つにして、その達成に取り組んでいかなければなりません。また、事務局と各施設・事業所が連携を密にしながら次期計画の策定を進めており、今まで以上に『ワンチーム』として結束する必要があります。

そのためには、職員が日常の業務に精勤する中で、働き甲斐を持ち成長を実感できる、風通しの良い職場づくりを進めていくことが重要です。単に『ワンチーム』と唱えさえすればそれが実現する、というものではありません。

日々の地道な取り組みを積み重ねることにより、各職場が、そして事業団全体が、真の『ワンチーム』となるよう、力を合わせていきましょう。





# 新常務理事紹介

このたび、常務理事兼事務局長に就任いたしました多田繁と申します。

私は、本年3月に長年勤務した岩手県を定年退職し、御縁あつて4月から当事業団にお世話になっていきます。県職員時代は、土木、教育、県議会、財政、農林水産、医療、競馬、土地改良など幅広く経験したところではありますが、残念ながら福社分野は一度も担当したことがありません。新たな分野への挑戦で身の引き締まる思いで一杯ですが、様々な視点からこれまでの経験が少しでもお役に立てられるよう取り組んでいきたいと思えます。

就任早々、事務局の皆様から業務説明を受けたり、現地に向向っては施設長さん方からお話を伺ったりと、まずは知ることから始めていますが、本県福社分野の先導役を担う当事業団ならではの施設数と提供サービスの多さには驚くばかりです。

これは、当事業団が受け持つ社会的な役割と県民の期待の大きさの表れであり、この負託に応える

ためには、持続可能な経営基盤をより盤石なものとし、安定した運営を展開していくことが何より重要であると改めて認識したところです。

また、健全な組織の運営に当たっては、福社を担う人材の確保と育成は欠かすことのできないものであり、豊かさに満ちた働きがいのある職場づくりが求められています。

こうしたことから、当事業団の経営理念のもと、4つの経営基本方針を着実に展開していくため、もとより微力ではありますが、誠心誠意努めてまいりますので、皆様方の御指導御鞭撻を心よりお願い申し上げます。



た だ しげる  
多 田 繁  
常務理事兼事務局長

## 岩手県社会福祉事業団 経営理念・経営基本方針

### 【経営理念】

岩手県社会福祉事業団は、ご利用のお客様の人間の尊厳の保持を旨として、お客様の立場に立った質の高いサービスを提供するとともに、地域福祉を推進し、全ての人が相互に人格と個性を尊重し、支え合いながら、その人らしく共に生きる豊かな社会の実現に貢献します。

### 【経営基本方針】（行動指針）

#### 1. お客様本位の良質かつ適切なサービスの提供

常に、お客様の立場に立って考え、人権の擁護とお客様本位の質の高いサービスの提供に努めるとともに、創意工夫し、社会環境の変化や地域ニーズに即応する新たな事業の展開に挑戦します。

#### 2. 地域福祉の推進

幅広い関係者と連携・協働し、福祉サービスを必要とする人が、地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化のほかあらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるよう、地域福祉の推進に努めます。

#### 3. 人材育成と働きがいのある職場づくり

計画的な人材の育成に努め、法人経営と質の高いサービスの提供を担う「優しい心、高い専門性、強い責任感と自省心を持ち、向上発展する人材」の育成に努めます。

常に学習する態度をとり、情報と衆知を集め、良い仕事をする「学習する組織」を目指します。

#### 4. 信頼される組織運営と経営基盤の安定・強化

当事業団は、県が出資する社会福祉法人という、極めて公共性の高い組織であるということを実感し、全ての職員が高いコンプライアンス意識をもってサービス提供に当たることで、県民の信頼に応えるよう努めます。

また、施設・事業所ごとの経営分析に基づく経営改善、事業継続に必要な積立金等の計画的造成、人材育成における各職制で必要な経営意識の醸成等によって、福祉サービスを将来に渡って安定的に提供し続けるための体制を強化し、事業団としての使命を果たすよう努めます。